



院内がん登録による生存率集計

令和3年4月23日 説明資料

国立研究開発法人 国立がん研究センター

がん対策情報センターがん登録センター

東 尚弘

The screenshot shows the website interface for 'がん登録・統計' (Cancer Registration and Statistics). The main navigation bar includes 'がん登録' (Cancer Registration), '統計' (Statistics), and 'がん対策' (Cancer Countermeasures). The '統計' section is active, displaying a breadcrumb trail: HOME > 統計 > 報告書・冊子 > がん診療連携拠点病院院内がん登録生存率集計. The main heading is 'がん診療連携拠点病院院内がん登録生存率集計' (Survival Rate Collection by In-hospital Cancer Registration at Cancer Care Collaboration Hub Hospitals). The page is dated '更新日：2015年11月06日 [更新履歴]' (Last updated: November 6, 2015 [Update History]). A list of items is shown, with the first item being '1. 2007年生存率報告書について' (Regarding the 2007 Survival Rate Report). The description below states: '全国のがん診療連携拠点病院において、5年を経過した時の相対生存率(国語版)を施設所在地の都道府県別に集計したものです。' (This is a collection of relative survival rates (Japanese version) at 5 years after diagnosis, by prefecture, for cancer care collaboration hub hospitals nationwide.)

院内がん登録による生存率集計

▶10年生存率の公表の意義

長期フォローアップの重要性を示す

▶3年生存率の公表の意義

科学的根拠に基づく情報を迅速に、国民へ提供すること

▶2カ年データでの5年生存率の公表の意義

生存率は、対象数が少ない場合は偏りが生じる。本集計では、集計対象数を確保するため2012年、2013年診断例を合算し集計（コメント収集後、都道府県別と施設別生存率を公表予定）

▶国民の皆様へ

生存率、特に長期予後は診断時点の治療データであり、現在の治療成績を示していない

▶今後の発展性

今後、更にデータが蓄積するため、より意義のある集計を行い、がん医療の透明性の確保や医療の質の向上を目指す。



院内がん登録の位置づけ-1

平成28年1月1日施行

▶がん登録等の推進に関する法律第四十四条第一項

専門的ながん医療の提供を行う病院、その他の地域におけるがん医療の確保について重要な役割を担う病院の開設者及び管理者は、厚生労働大臣が定める指針に即して院内がん登録を実施するよう努めるものとする

平成27年12月15日公布

▶院内がん登録の実施に係る指針(厚生労働省告示第四百七十号)

院内がん登録とは、
「**病院において、がん医療の状況を適確に把握するため、**
当該病院におけるがん患者について、
全国がん登録情報よりも詳細な治療の状況を含む情報を収集し、
院内がん登録データベースに記録し、及び保存すること」

院内がん登録の位置づけ-2

平成27年12月15日公布

▶ 院内がん登録の実施に係る指針(厚生労働省告示第四百七十号)

院内がん登録データベースの活用により、以下の効果が期待される

1. 病院において、当該病院において診療が行われたがんの罹(り)患、診療、転帰等の情報を適確に把握し、治療の結果等を評価すること及び他の病院における評価と比較することにより、がん医療の質の向上が図られること
2. 国立研究開発法人国立がん研究センターにおいて、院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うことにより、専門的ながん医療を提供する医療機関の実態把握に資すること
3. 病院や国立がん研究センターにおいて、院内がん情報等を適切に公表することにより、がん患者及びその家族等の医療機関の選択等に資すること
4. 行政において、前号に基づき公表された院内がん情報を活用し、がん対策の企画立案やがん医療の分析及び評価を行うことにより、がん対策の充実が図られること

生存率の統計について

	全国がんセンター協議会	院内がん登録	地域がん登録	全国がん登録
調査対象	全国のがん専門診療施設32施設	全国のがん診療連携拠点病院等をはじめとするがん診療病院	全国47都道府県内の全医療施設	全国47都道府県内の全病院及び指定された診療所
集計目的	がん登録集計の先駆的取り組みを研究的に実施	がん診療連携拠点病院等における患者の平均的な予後の提示	国及び都道府県のがん対策への活用	国及び都道府県のがん対策への活用
集計開始対象年	1997年	2007年	1951年(罹患集計)	2016年
最新集計				
3年相対生存率	未集計	2014年 胃76.1%(約5万8千例) 2015年 胃76.5%(約6万例)	未集計	未集計
5年相対生存率	2010-2012年診断 胃74.9%(約2万3千例)※ 大腸76.5%(約1万5千例)※	2012年(単年) 胃71.4%(約9万3千例) 2012-13年(2力年) 胃72.1(約11万6千例)	2009-2011年診断 胃66.6%(約9万7千例)※ 大腸71.4%(約9万1千例)※ 対象地域(22都道府県)	未集計
10年相対生存率	2004-2007年診断 胃66.8%(約1万5千例)※ 大腸68.7%(約9千例)※	2007年 胃67.8%(約2万8千例) 2008年 胃66.0%(約3万6千)	未集計 (都道府県単位ではあり。 例:大阪府)	未集計

※部位別集計



院内がん登録生存率集計結果閲覧システム(初公開)

2007年・2008年10年生存率(初)

2012年・2012-13年5年生存率

2014年・2015年3年生存率

令和3年4月23日 説明資料

国立研究開発法人 国立がん研究センター
がん対策情報センター がん登録センター
院内がん登録分析室

奥山 絢子

The screenshot shows the user interface of the '院内がん登録生存率集計結果閲覧システム' (In-hospital Cancer Registration Survival Rate Data Viewing System). At the top right, there are links for 'がん登録・統計' (Cancer Registration & Statistics) and 'TOPページへ' (To Top Page). The main content area is titled '検索条件' (Search Conditions) and includes a PDF download link for the system manual. Below this, there are instructions for using the search function, such as selecting 'がんの種類' (Cancer Type) and '診断年と生存率' (Diagnosis Year and Survival Rate). A list of search criteria is provided with checkboxes for selection, including '性別' (Gender), '結合病期' (Staging), '年齢層別(歳)' (Age Group), and '手術の有無' (Surgery Status). At the bottom, it indicates '表示されるクワ数: 6本' (Number of rows to be displayed: 6) and a '結果表示' (Display Results) button.

院内がん登録生存率集計リリースのポイント

◆ 院内がん登録生存率集計結果閲覧システム初公開

がんの種類・性別・病期・年齢・手術の有無といった条件別に
3, 5年生存率を検索し比較することが可能

<https://hbcr-survival.ganjoho.jp/>

・ 従来の「部位別」から「がん(がん種)別」集計へ変更

① 2007・2008年10年生存率集計(初集計)

院内がん登録としては、初めてとなる10年生存率集計

既存集計としては全国がんセンター協議会(全がん協)(21施設)による
生存率調査があるが、より多くのがん診療施設・新しい診断例を集計

② 2012・2012-13年5年生存率集計(6, 7回目)

③ 2014・2015年3年生存率集計(4, 5回目)

集計対象選択基準 (参考資料)

Step1: 集計対象例の選定

その施設で初回治療を開始した例
悪性新生物<腫瘍>

(* 脳・中枢神経系良性腫瘍を含む)

年齢0~99歳

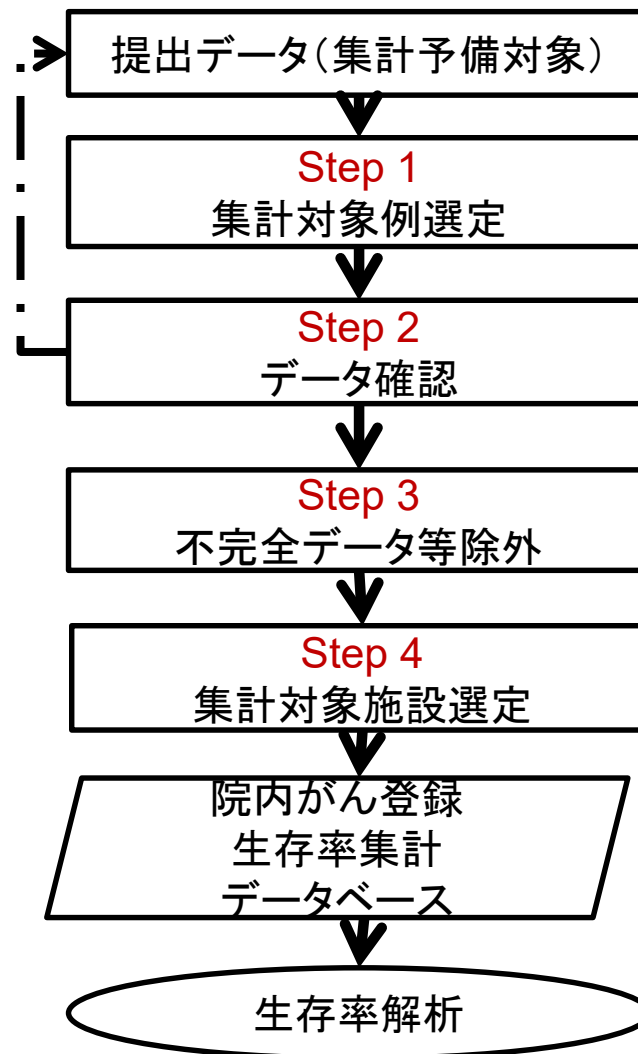
Step2: データ確認

Step3: 不完全データ除外

年齢不詳、性別不詳
臨床病期0期等を除く

Step4: 集計対象施設選定

生存状況把握割合90%以上



生存率とは

実測生存率

実際に診療した患者さんの生存割合

死因に関係なく、すべての死亡を計算に含めた生存率

※がん診療連携拠点病院等をはじめとするがん診療病院で

初回治療を受けた患者さんを対象

疾患の経過についての一つの見通し

相対生存率

がん以外の死亡による影響を取り除くために、

患者集団の実測生存率を、患者集団と同じ性・年齢構成の

一般集団における期待生存率で割った生存率

※がん対策の評価において、がんによる影響を見たいときに用いる

院内がん登録生存率集計結果の公表基準

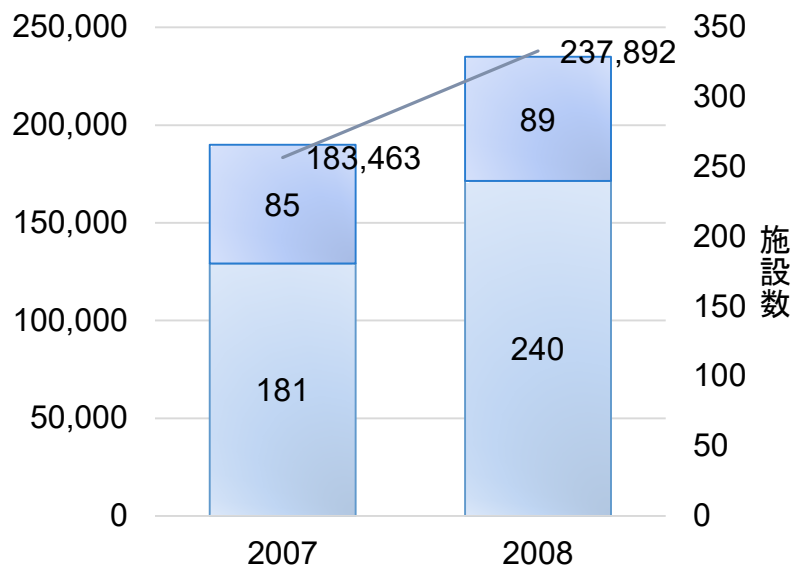
- 都道府県がん診療連携拠点病院連絡議会がん登録部会で決定
- 全がんの生存状況把握割合が90%以上の施設を対象
※生存状況把握割合が低いと生存率が過大評価となるため
- 集計対象が原則30例以上
- 都道府県内で該当施設が1施設の場合は、都道府県値として公表しない



院内がん登録10年生存率集計結果

院内がん登録10年生存率の結果概要 (2007年・2008年診断例)

- ◆ **院内がん登録の10年生存率として、初めてとなる長期予後集計**
公開されている10年生存率としては、**最も大規模(多施設)かつ最新の調査結果**
- ◆ **がん・病期によって5年以降も生存率低下を認めたがんもあり、より長期的な経過観察の必要性が示唆された**

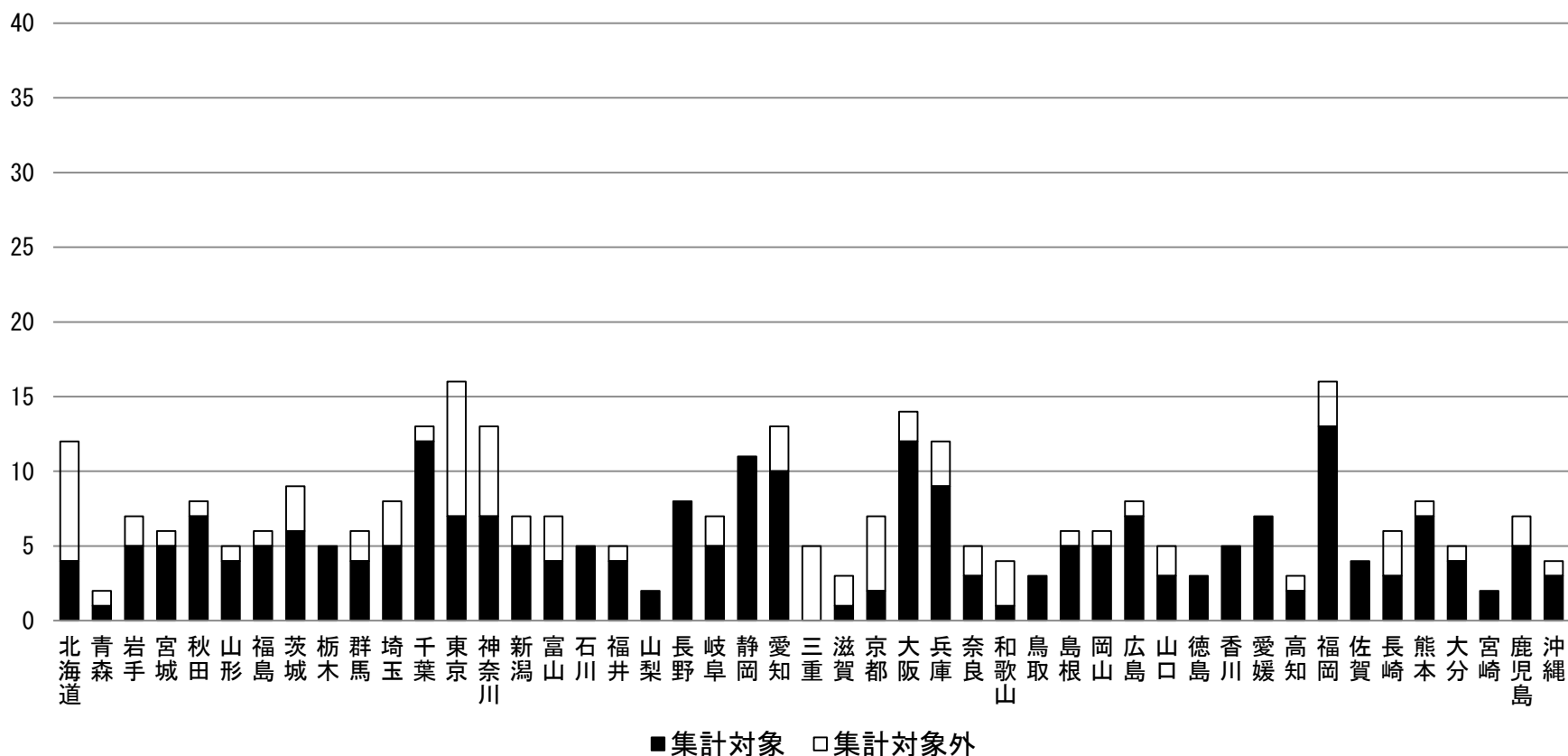


■ 集計対象施設数* ■ 集計対象外施設数
— 集計対象例数

※全がんの生存状況把握割合が90%以上

2008年では、
対象施設が59施設増加↑
対象例が54,429件増加↑

院内がん登録2008年10年生存率：都道府県別参加状況



拠点病院等をはじめとする全国のがん診療病院が参加、
2008年当時から院内がん登録を実施し予後情報付データ提出できる施設は限定的



院内がん登録10年生存率集計項目 (2007-2008年)

全がん(報告書PDFのみ)

がん(がん種)別 (15種)

胃癌、大腸癌(結腸癌・直腸癌)、肝細胞癌、肝内胆管癌、乳癌
小細胞肺癌、非小細胞肺癌

2008年診断例は、以下の追加集計

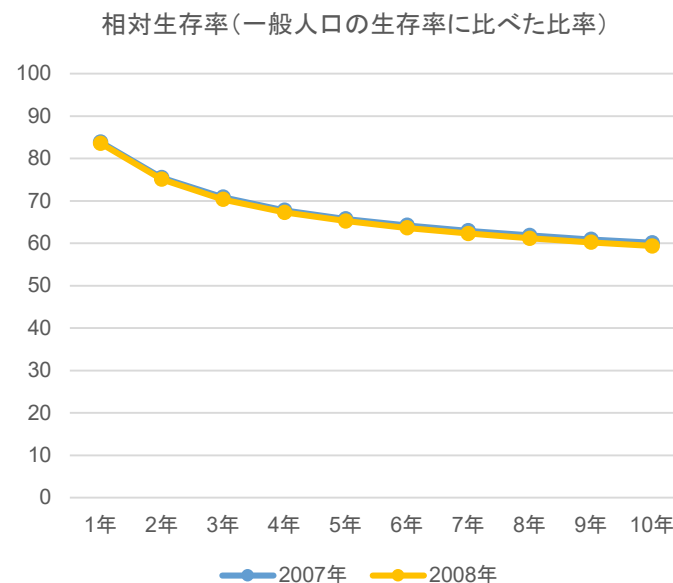
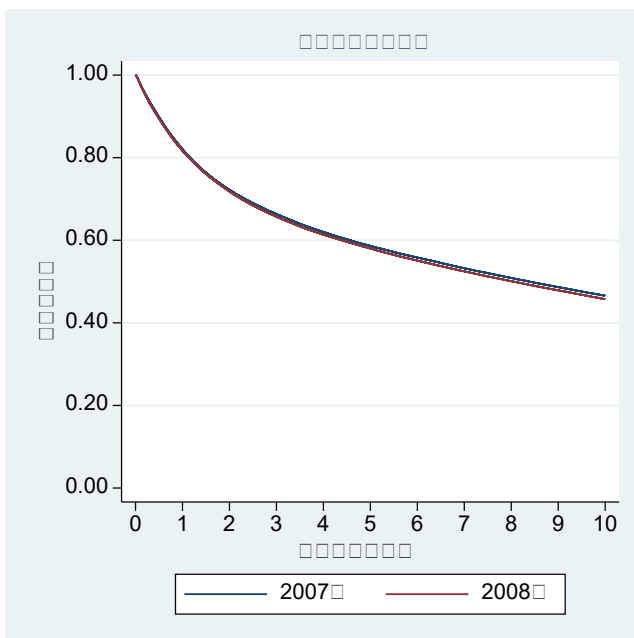
食道癌、膵臓癌、子宮頸癌、子宮内膜癌、前立腺癌、膀胱癌

性別、病期別、年齢別、観血的治療(手術)の有無別等

※病期は、国際病期分類(UICC TNM分類)第6版準拠

院内がん登録10年生存率の結果概要 (2007年・2008年診断例)

診断年	集計対象	全がん 実測生存率	全がん 相対生存率	平均年齢
2007年	181施設 183,463件	46.6%	60.1%	66.1歳
2008年	240施設 237,892件	45.7%	59.4%	66.6歳

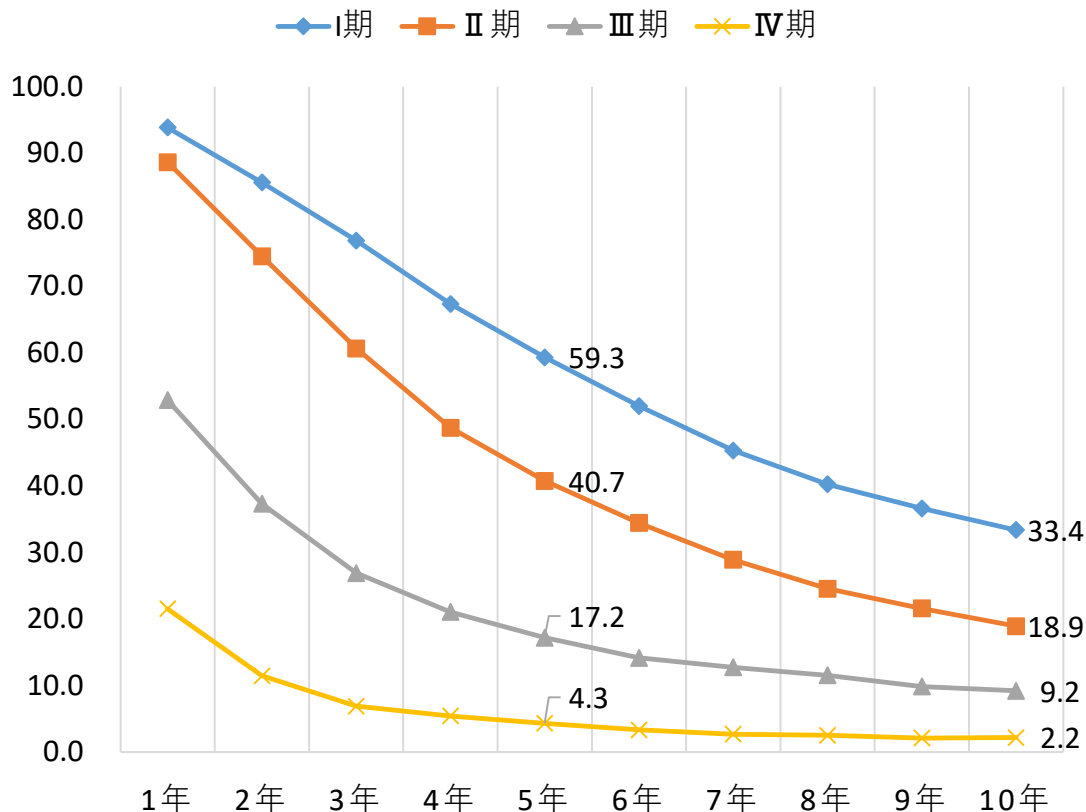


※生存率は、年齢調整等をしていないため生存率の比較には留意が必要



肝細胞癌 (院内がん登録2008年10年生存率)

相対生存率 (一般人口の生存率に比した比率)

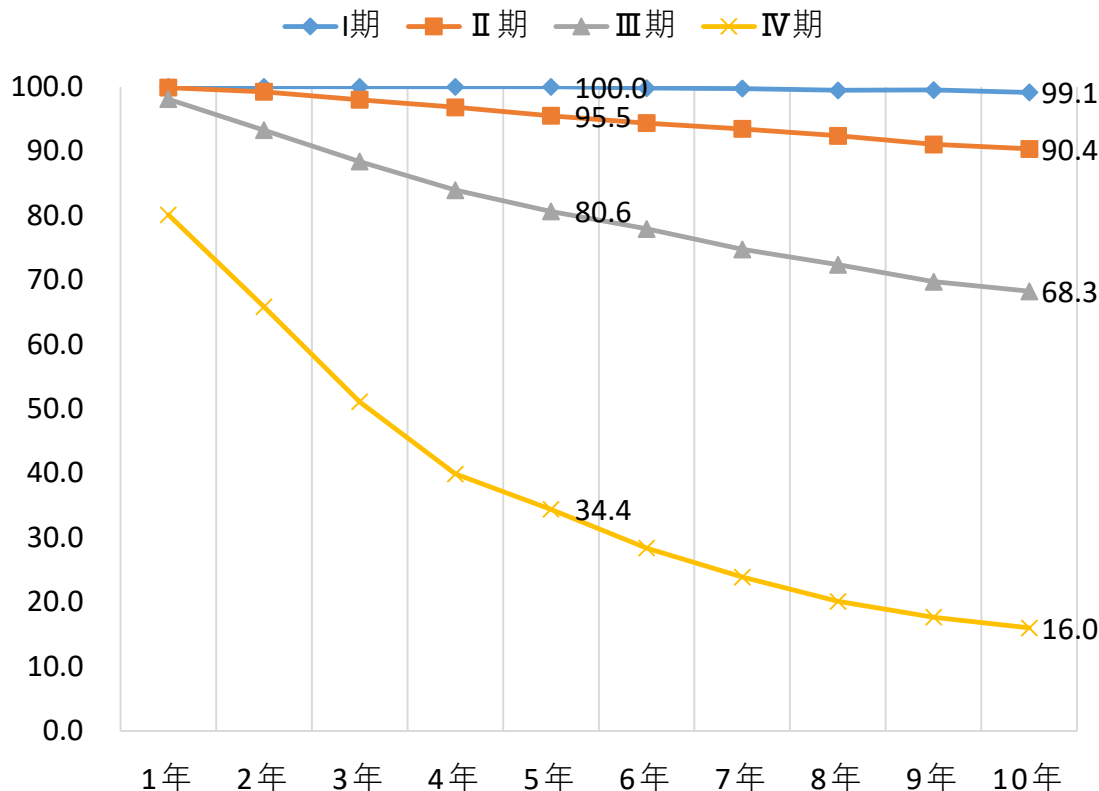


	数
対象数	10,794
平均年齢	69.6歳
50歳未満	292 (2.7%)
50歳代	1,402 (13.0%)
60歳代	3,090 (28.6%)
70歳代	4,580 (42.4%)
80歳以上	1,430 (13.2%)
総合病期	
I期	4,357 (40.4%)
II期	3,420 (31.7%)
III期	2,161 (20.0%)
IV期	573 (5.3%)
不明	283 (2.6%)

5年以降も生存率の低下傾向を認め、長期的なフォローアップが必要性が示唆

女性乳癌（院内がん登録2008年10年生存率）

相対生存率（一般人口の生存率に比した比率）



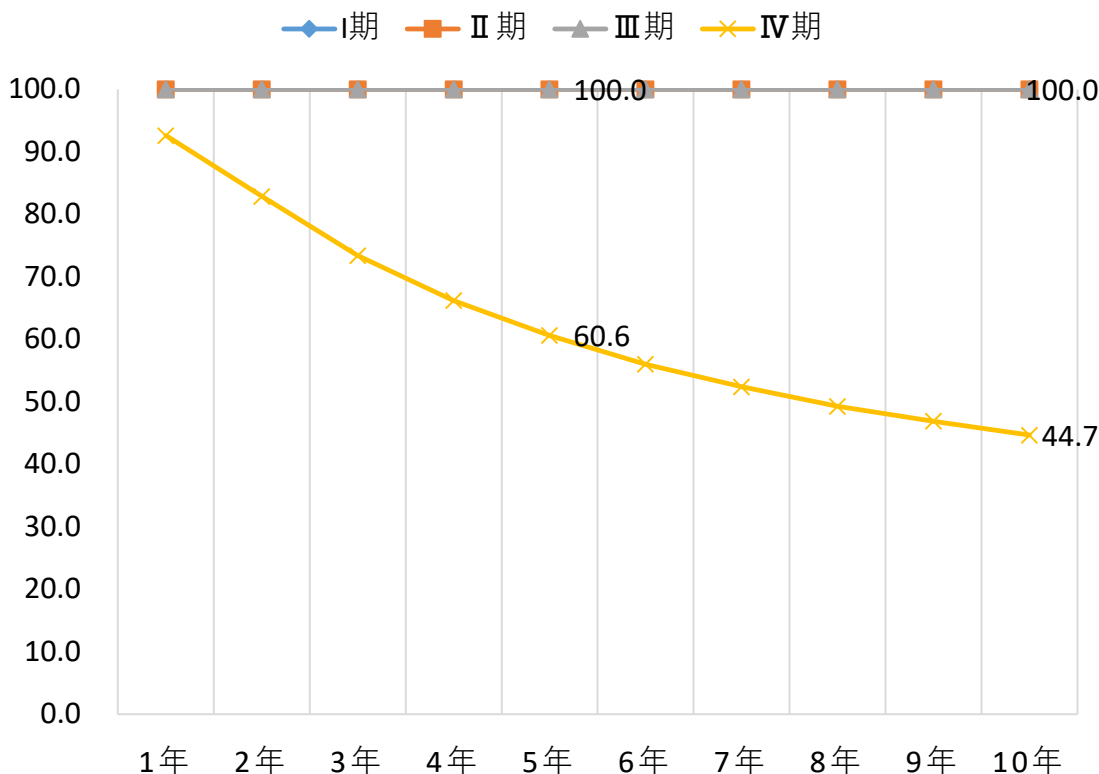
	数
対象数	20,829
平均年齢	58.6歳
50歳未満	5,782 (27.8%)
50歳代	5,432 (24.3%)
60歳代	5,063 (24.3%)
70歳代	3,218 (15.4%)
80歳以上	1,334 (6.4%)
総合病期	
I期	8,730 (41.9%)
II期	8,377 (40.2%)
III期	2,497 (12.0%)
IV期	1,050 (5.0%)
不明	175 (0.8%)

I期はほぼ横ばいで推移、III・IV期では5年以降もやや減少傾向



前立腺癌 (院内がん登録2008年10年生存率)

相対生存率 (一般人口の生存率に比した比率)



	数
対象数	16,482
平均年齢	71.2歳
50歳未満	41 (0.2%)
50歳代	1,179 (7.2%)
60歳代	5,265 (31.9%)
70歳代	7,672 (46.5%)
80歳以上	2,325 (14.1%)
総合病期	
I期	533 (3.2%)
II期	10,313 (62.6%)
III期	2,565 (15.6%)
IV期	2,607 (15.8%)
不明	464 (2.8%)

I～III期では、10年相対生存率も100%

院内がん登録10年生存率集計のポイント（2007年・2008年診断例）

- ◆院内がん登録として、初めてとなる長期予後集計
既存の10年生存率集計としては、最も大規模(多施設)かつ最新の情報
- ◆一つの治癒の目安として5年生存率が用いられることが多かったが、
がんや病期によって5年以降もフォローアップが重要
例えば、肝細胞癌や女性乳癌のⅢ期やⅣ期など
- ◆院内がん登録開始初期のデータであるため、登録精度には課題がある
- ◆今後、データが蓄積されることでより詳細な実態把握を検討

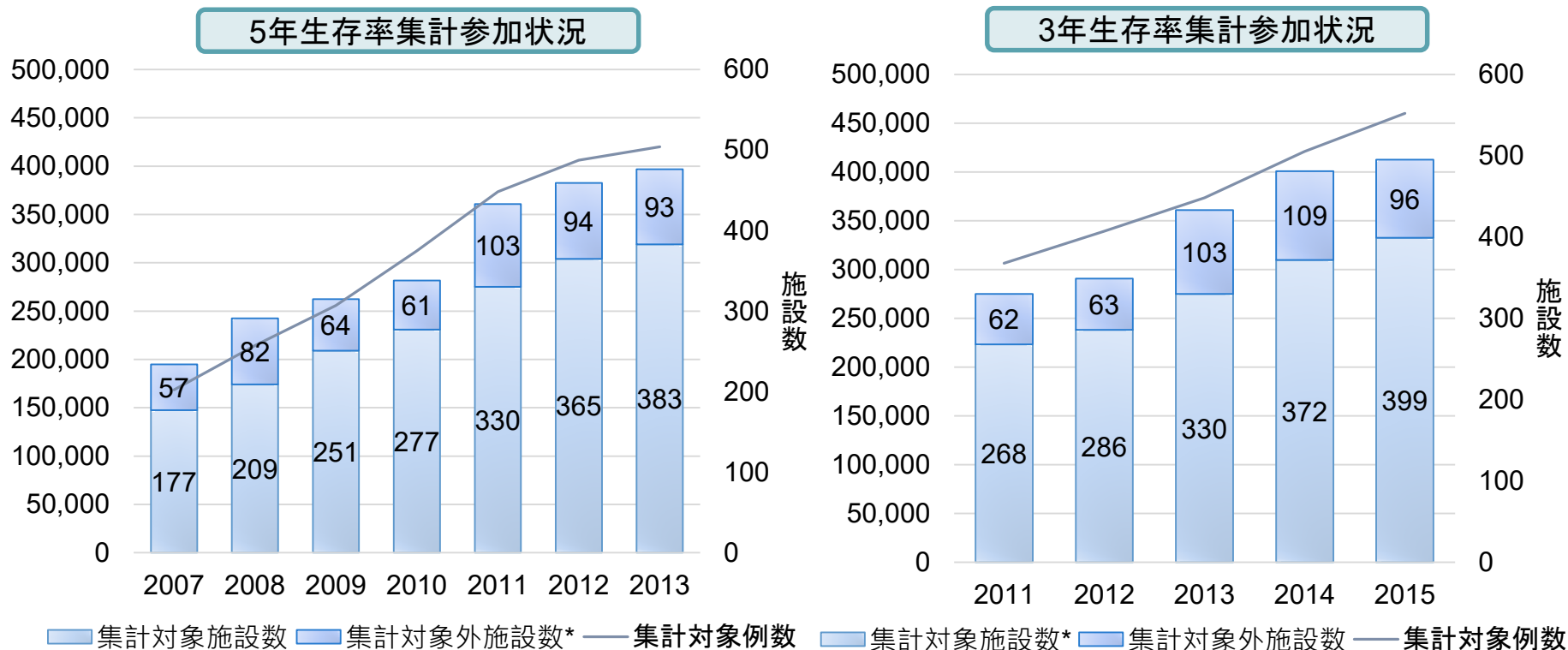
13～14年前の過去に治療を受けた患者さんのデータを集計
日々がんの治療技術も進んでいることを踏まえつつご覧ください



院内がん登録5年・3年生存率集計結果

院内がん登録5年・3年生存率の結果概要

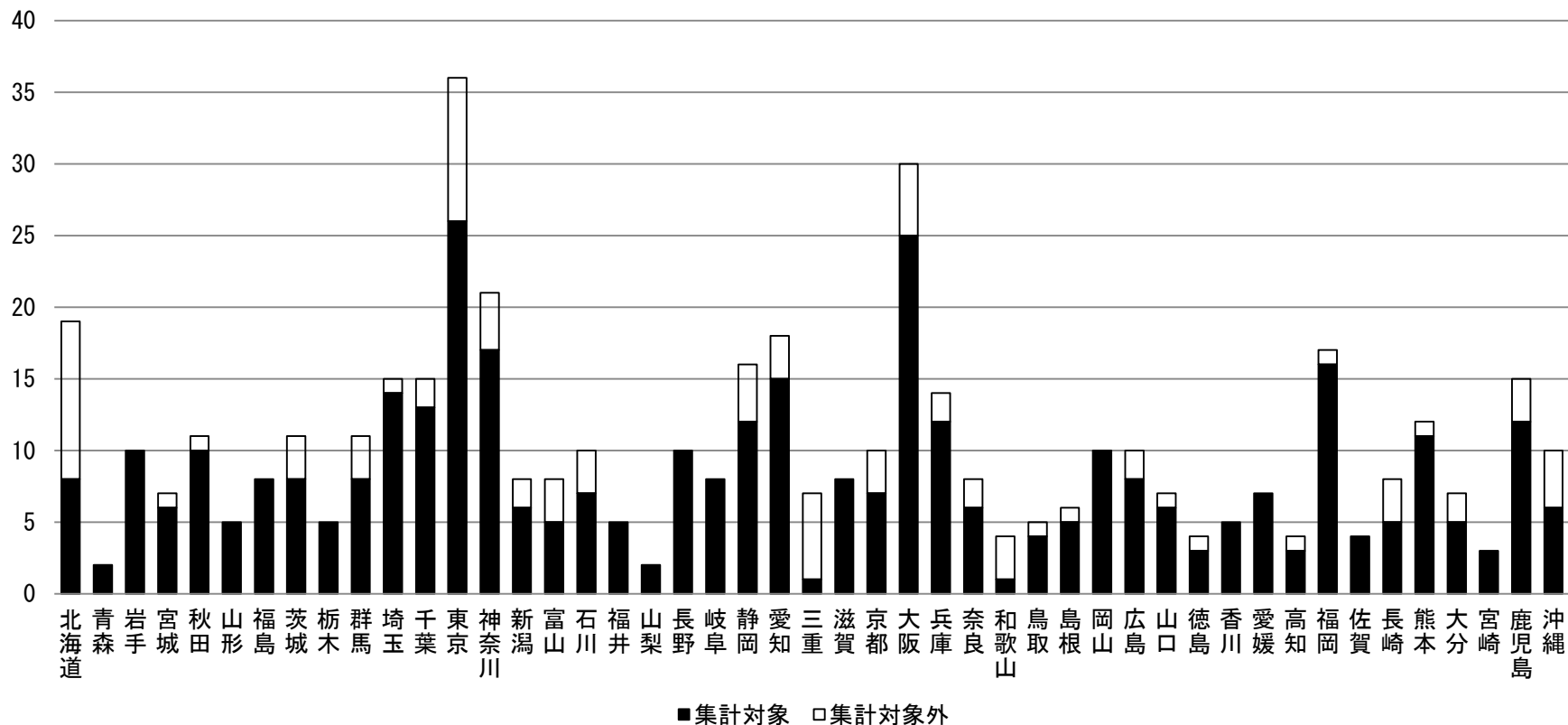
- ◆ 院内がん登録5年生存率は6・7回目、3年生存率は4・5回目の報告
従来の「部位別」から「がん(がん種)別」集計へ変更
- ◆ 院内がん登録生存率集計結果閲覧システムを初公開
がんの種類・性別・病期・年齢・手術の有無といった条件別に検索可



*全がんの生存状況把握割合が90%以上



院内がん登録2012-13年5年生存率：都道府県別参加状況



拠点病院等をはじめとする全国のがん診療病院が参加
年々参加・集計対象施設は増加傾向

院内がん登録5年・3年生存率集計項目

全がん(報告書PDFのみ)

がん(がん種)別 (23種)

胃癌、大腸癌(結腸癌・直腸癌)、**肝細胞癌、肝内胆管癌、乳癌**
小細胞肺癌、非小細胞肺癌
食道癌、膵臓癌、子宮頸癌、子宮内膜癌、前立腺癌、膀胱癌
甲状腺乳頭・濾胞癌、甲状腺未分化癌、甲状腺髄様癌
胆嚢癌、咽頭癌、腎癌、腎盂尿管癌、**卵巣癌**

性別、病期別、年齢別、観血的治療(手術)の有無別等

※病期は、国際病期分類(UICC TNM分類)第7版準拠(2012年診断例より)



院内がん登録5年・3年生存率の結果概要

診断年	集計対象	全がん 実測生存率	全がん 相対生存率
2012年	365施設 406,210件	59.5%	67.3%
2012-2013年	413施設 826,380件 (前回 318施設 650,019件)	59.5% (前回 58.8%)	67.3% (前回 66.4%)
2014年	372施設 421,150件	67.6%	72.6%
2015年	399施設 460,092件 (前回 330施設 373,522件)	68.5% (前回 67.5%)	73.6% (前回 72.4%)

2012-2013年5年生存率は、2012年単年に比較し、48施設増加↑
 2015年3年生存率は、2014年に比較し、27施設増加↑、対象は約4万件増加↑
 生存率はほぼ同様の傾向

※生存率は、年齢調整等をしていないため生存率の比較には留意が必要

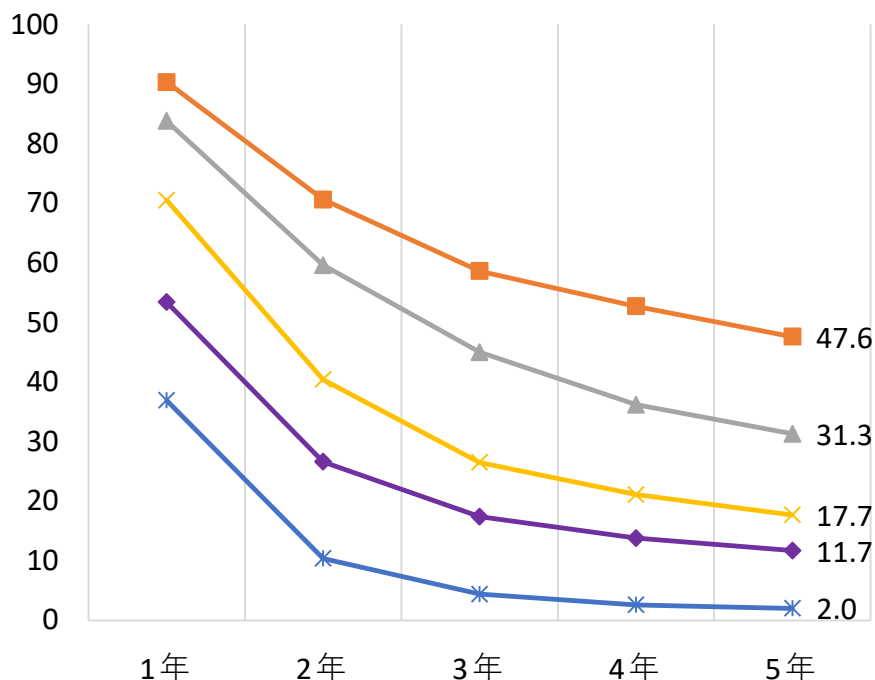


小細胞肺癌と非小細胞肺癌 (院内がん登録2012-13年5年生存率)

小細胞肺癌

相対生存率 (一般人口の生存率に比した比率)

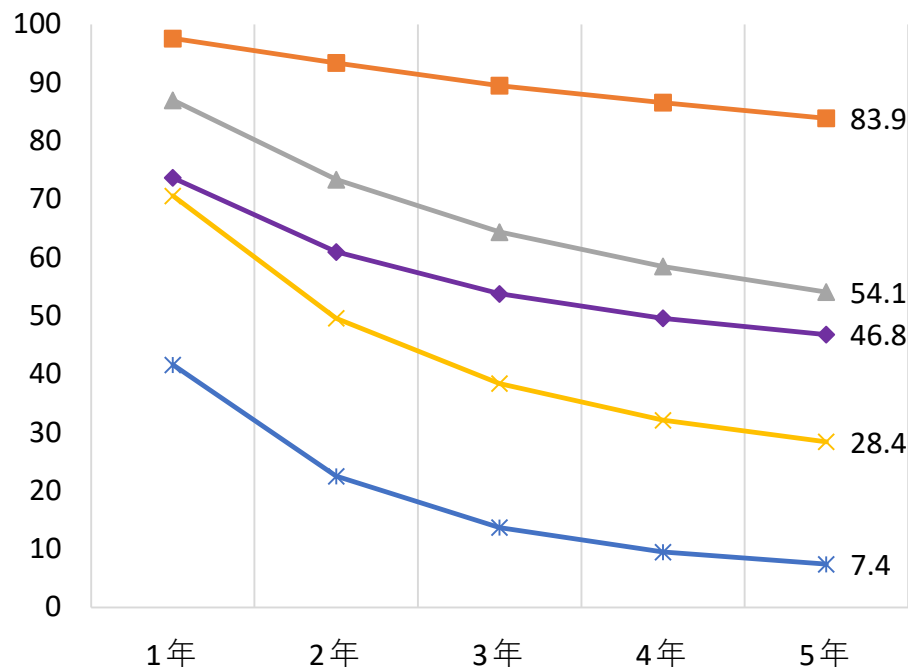
◆ 全体 ■ I期 ▲ II期 ✕ III期 * IV期



非小細胞肺癌

相対生存率 (一般人口の生存率に比した比率)

◆ 全体 ■ I期 ▲ II期 ✕ III期 * IV期



小細胞肺癌と非小細胞肺癌(がんの種類)や病期によって生存率に違いがある



小細胞肺癌と非小細胞肺癌の属性 (院内がん登録2012-13年5年生存率)

小細胞肺癌	
対象数	9,050
平均年齢	70.6歳
50歳未満	140 (1.5%)
50歳代	719 (7.9%)
60歳代	3,133 (34.6%)
70歳代	3,662 (40.5%)
80歳以上	1,396 (15.4%)
総合病期	
I期	668 (7.4%)
II期	572 (6.3%)
III期	2,529 (27.9%)
IV期	5,167 (57.1%)
不明	114 (1.3%)

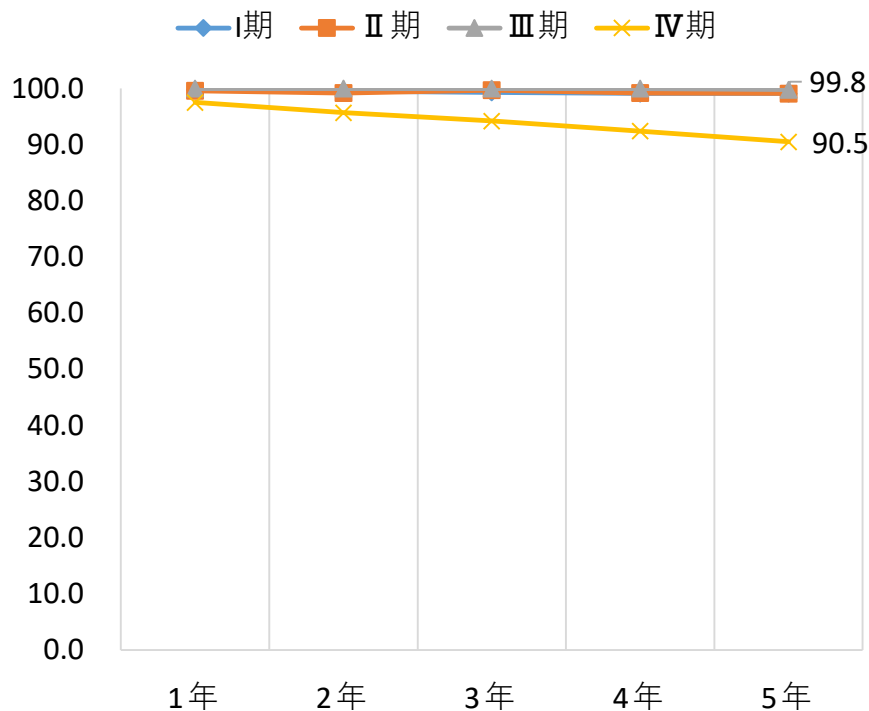
非小細胞肺癌	
対象数	93,019
平均年齢	70.5歳
50歳未満	3,048 (3.3%)
50歳代	8,472 (9.1%)
60歳代	28,716 (30.9%)
70歳代	34,744 (37.4%)
80歳以上	18,039 (19.4%)
総合病期	
I期	38,095 (41.0%)
II期	8,293 (8.9%)
III期	16,107 (17.3%)
IV期	29,083 (31.3%)
不明	1,441 (1.5%)

小細胞肺癌では、診断された時に進行した病期が多い

甲状腺癌（院内がん登録2012-13年5年生存率）

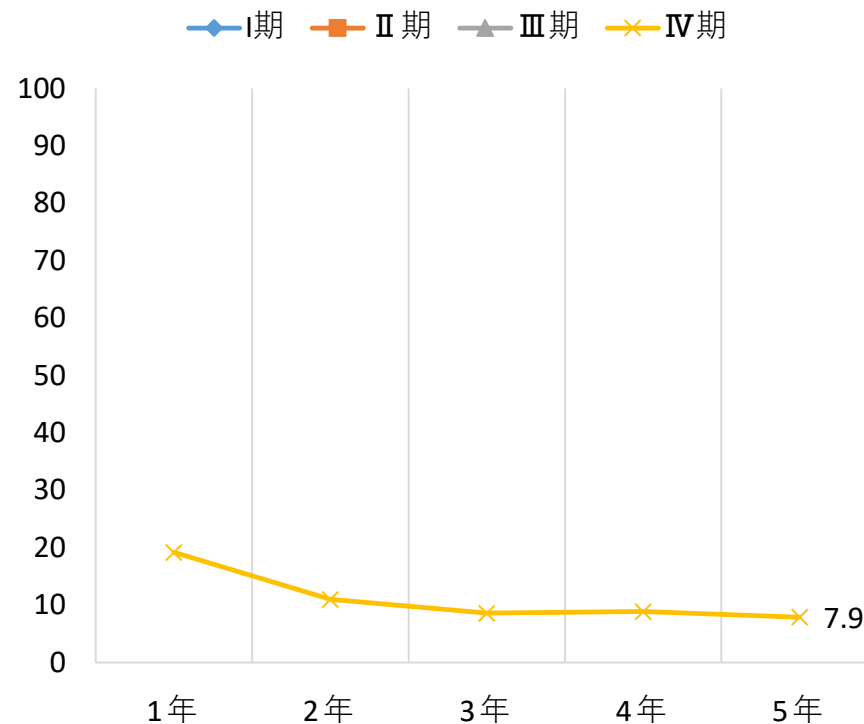
甲状腺乳頭・濾胞癌

相対生存率（一般人口の生存率に比べた比率）



甲状腺未分化癌

相対生存率（一般人口の生存率に比べた比率）



甲状腺乳頭・濾胞癌では、生存率が高い傾向にあるが、未分化癌は低い



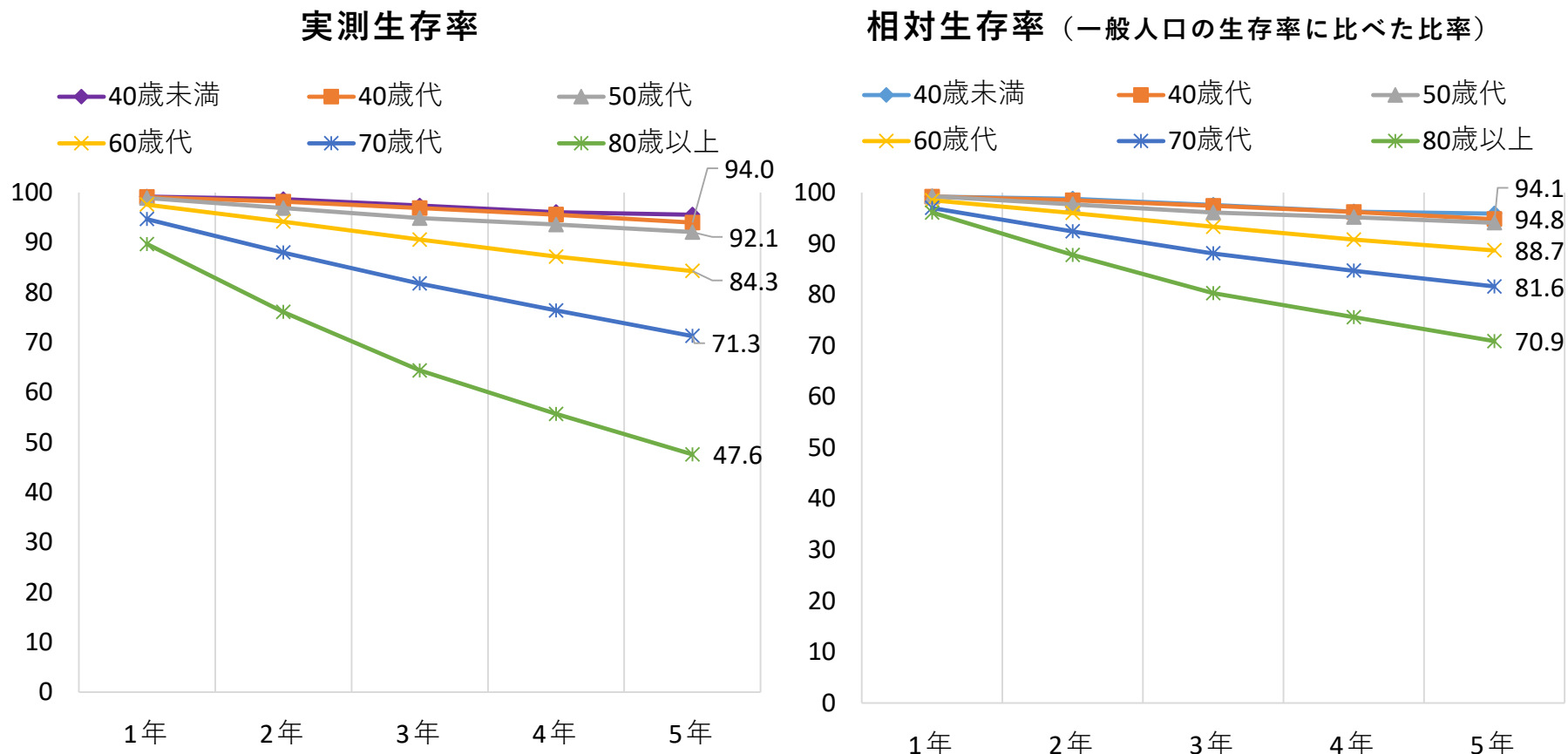
甲状腺乳頭・濾胞癌と未分化癌の属性 (院内がん登録2012-13年5年生存率)

甲状腺乳頭・濾胞癌	
対象数	13,461
平均年齢	57.7歳
50歳未満	4,034 (30.0%)
50歳代	2,530 (18.8%)
60歳代	3,501 (26.0%)
70歳代	2,623 (19.5%)
80歳以上	773 (5.7%)
総合病期	
I期	5,522 (41.0%)
II期	726 (5.4%)
III期	4,102 (30.5%)
IV期	2,902 (21.6%)
不明	209 (1.6%)

甲状腺未分化癌	
対象数	297
平均年齢	72.8歳
50歳未満	<10
50歳代	21 (7.1%)
60歳代	81 (27.3%)
70歳代	100 (33.7%)
80歳以上	88 (29.6%)
総合病期	
I期	-
II期	-
III期	-
IV期	285 (96.0%)
不明	<10

甲状腺未分化癌は、数は少ないが患者の平均年齢が高い

非小細胞肺癌I期の生存率 (院内がん登録2012-13年5年生存率)



同じがんのI期でも、70歳以上の高齢者ではやや低い傾向、また実測と相対生存率の差が大きくなり、高齢者ではがん以外による死亡も高くなることが影響していると考えられる

2012年5年(単年)生存率集計における都道府県別生存率

- ◆ **直ちに都道府県・施設の治療成績を示すわけではない**
都道府県によって集計参加状況はばらつきがある
- ◆ **患者背景の差**(年齢、治療方法、併存疾患、全身状態等)が生存率には大きく影響
⇒ 都道府県の特性を合わせて理解する必要

都道府県のコメントを必ずご覧ください

院内がん登録5年・3年生存率集計のポイント

- ◆5年・3年生存率ともに、参加施設・集計対象施設が増加し、より安定した推定値

2012-13年5年生存率 413施設 約83万件 2015年3年生存率 399施設 約46万件

- ◆がん(がん種)や病期によっても生存率は異なる
- ◆調査にご協力いただいた施設が増加したことを踏まえ、より詳細な生存率を見ていただけるようシステムを開発
年齢、性別などの情報を鑑みながら、生存率集計値をご覧ください

生存率は、あくまでもこれまでにがんと診断された方々の経験から、
がん患者さんの予後を考える一つの資料



院内がん登録生存率集計結果閲覧システム **NEW**



院内がん登録生存率集計結果閲覧システム(初公開)

国立がん研究センター がん情報サービス ganjoho.jp

院内がん登録生存率集計結果閲覧システム

国立がん研究センター がん情報サービス ganjoho.jp

院内がん登録生存率集計結果閲覧システム

はじめに

更新・確認日：2020年2月6日

院内がん登録は、病院で診断されたり、治療されたりした患者さんのがんについての情報を病院全体で集めたものです。国立がん研究センターでは、がん登録等の推進に関する法律及び院内がん登録の実施に係る指針（厚生労働省告示470号）に基づいて、データ収集を行っています。

ここでは、全国のがん診療連携拠点病院等をはじめとするがん診療病院から収集した予後情報付の院内がん情報に基づき、がん患者さんの生存率を集計した結果を見ることができます。

- 本サイトで表示される生存率は、過去の期間にがんと診断された方の生存率です。
 - 重篤な併存疾患等を持っている方も含まれた集団での値です。
 - 治療の進捗等により近年の状況やこれから治療を受けられる患者さんには当てはまらない可能性があります。
 - 各部位に発生した主に上皮性のがん（癌種）を対象に集計しています。
 - 但し、上皮がんは含まれておらず、悪性新生物<腫瘍>（浸潤癌）が対象です。
- 集計方法の詳細は、院内がん登録生存率集計報告書をご覧ください。

留意点

※院内がん登録生存率集計結果閲覧システムについて(PDF:140KB)

[※生存率集計対象施設一覧ファイル\(Excel:37KB\)](#)

次へ

検索条件

※院内がん登録生存率集計結果閲覧システムについて(PDF:140KB)

はじめに「がんの種類」と「診断年/生存率」を選んで結果表示ボタンを押して下さい。性別や年齢等別に詳しく生存率を調べたい場合は、詳細設定を開いて選択して下さい。

がんの種類 ※上皮内がんを除く

診断年と生存率

[^ 詳細条件を閉じる](#)

調べたい条件に当てはまるように以下の項目を選択して下さい。
例えば、（手術の有無に関係なく）60代男性のI期の生存率を調べたい場合、性別「男性」、総合病期「I期」、年齢階級「60代」、手術の有無「全体」を選んで下さい。
※「表示されるグラフ数」は20本以内に収まるようにして下さい。

性別 男女(全体) 男性 女性

総合病期 全体 I期 II期 III期 IV期

年齢階級(歳) 全年齢 40未満 40代 50代 60代 70代 80以上

手術の有無 全体 手術有 手術無

表示されるグラフ数：4本

結果表示

同じ年代・性別で、がんと診断されたら、どのくらいの生存率なのか？
本システムを利用することで、がん、性別、年代、病期、手術の有無を選択して、
生存率がどの程度かを調べることができる



院内がん登録生存率集計結果閲覧システム(初公開)

院内がん登録生存率集計結果閲覧システム

[検索条件ページへ](#)

院内がん登録生存率集計結果閲覧システム

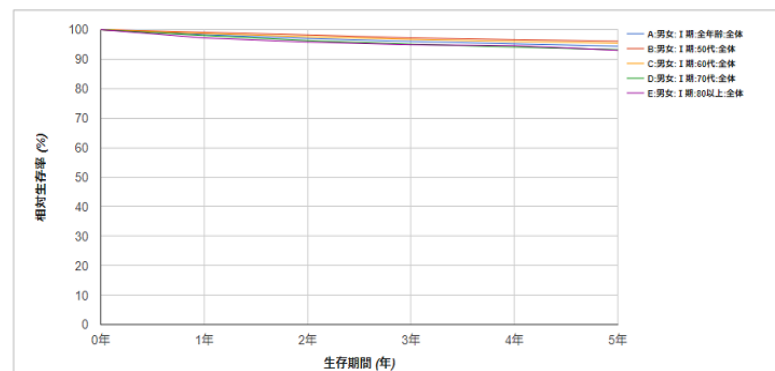
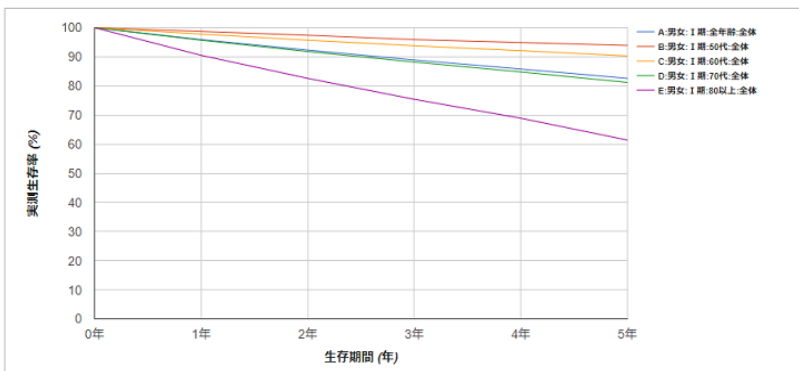
[検索条件ページへ](#)

がんの種類	大腸癌	診断年と生存率	2012-2013年5年生存率	性別	男女
病期	I期	年齢階級	全年齢、50代、60代、70代、80以上	手術の有無	全体

がんの種類	大腸癌	診断年と生存率	2012-2013年5年生存率	性別	男女
病期	I期	年齢階級	全年齢、50代、60代、70代、80以上	手術の有無	全体

実測生存率 **相対生存率** ※右横凡例をクリックするとグラフが太線になります

実測生存率 **相対生存率** ※右横凡例をクリックするとグラフが太線になります



グラフ	性別	病期	年齢階級	手術の有無	対象数	実測生存率
A	男女	I期	全年齢	全体	26,665	82.6%
B	男女	I期	50代	全体	3,132	93.9%
C	男女	I期	60代	全体	7,859	90.3%
D	男女	I期	70代	全体	9,371	81.2%
E	男女	I期	80以上	全体	4,899	61.4%

グラフ	性別	病期	年齢階級	手術の有無	対象数	相対生存率	95%信頼区間
A	男女	I期	全年齢	全体	26,665	94.4%	93.9% - 94.9%
B	男女	I期	50代	全体	3,132	96.1%	95.1% - 96.9%
C	男女	I期	60代	全体	7,859	95.4%	94.7% - 96.1%
D	男女	I期	70代	全体	9,371	93.2%	92.3% - 94.1%
E	男女	I期	80以上	全体	4,899	93.0%	90.9% - 95.1%

同じがん・病期でも、年齢や手術の有無により生存率は異なる
 主治医らと治療等について考える際の一つの情報としての活用
 日々がんの治療技術は進歩しています、あくまでも一つの参考情報

謝辞

院内がん登録は、

- 全国のがん診療連携拠点病院等をはじめとするがん診療施設の協力のもと実施されています
- 院内がん登録の集計・公表方針等は、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会で検討しています。
- 皆様のご協力に心よりお礼申し上げます。